

令和6年度 小・中学校における環境教育の取組み

社会科（第4学年）

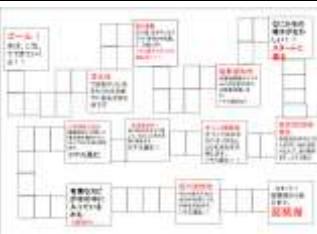
テーマ【 住みよいくらしをつくる（水はどこから）】

門真市立東小学校

《学習のねらい》

- 水の供給の仕組みや経路、それらに関する問題などについて理解し、これからの課題や自分達にできることを考えることができる。

実施時期 5月～6月

	学習活動の主な内容	指導のポイント
1	・単元を貫く問い合わせ 世界における水道水が飲める国の割合、地球上にある水のうち飲料水として使える割合、一日に家庭で使う水の量を学習する。	■どうして日本の水道水は飲めるのか、それは持続可能ことなのか、問い合わせをたせる。
2	・調べ学習 教科書、DVD、水道局パンフレットなどから情報を集め、水の供給の仕組みを知る。	■淀川の水を取水していることを知り、環境にも目を向ける。浄水場で働く人の苦労も知る。
3	・水道局の出前授業 ろ過、活性炭、塩素の実験 水道水、ミネラルウォーターの利き水体験	 ■浄水場の水をきれいにする機械の仕組みと関連した実験をする。
4	・すくろく作り 学習したことを生かして、水がきれいになっていく過程をすくろくで表す。	 ■“〇マス進む”“〇マスもどる”を考えることにより、環境にとって良いこと、悪いことを考えさせる。すくろくは紙媒体でもデジタルでも可とする。

《活用したプログラムや教材、ゲストティーチャー等》

- 庭窪浄水場 DVD、浄水場パンフレット
- 門真市水道局職員（ゲストティーチャー）

《成果》

- 資料として、教科書以外にパンフレット、映像、本など多くのものを準備し、子どもが自由に選べるようにし、子ども達が自分に合うものを選んで取り組んでいた。
- すくろくを作るというゴールが動機づけになり、資料や動画を進んで見るなど、楽しそうに取り組む姿が見られた。
- ゲストティーチャーによる実験で汚れた水がきれいになっていく様子を視覚的に捉えることにより、浄水場の役割を進んで学習することができた。
- 川から取水していること、家庭から出た水は下水処理場を通って再び川に流していること、そうして水は循環していることを学び、持続可能なものにするために自分たちにできることを考えることができた。